



第 73 号
(年 4 回発行)
編集発行 弘学時報
前報 弘学時報
印刷所 (有)小野印刷所

2018年 弘学祭開催



今年度の学祭のテーマは「笑顔満祭」とさせていただきます。このテーマには、文化祭に来てくださったお客様はもろろんのこ



2018年度弘学祭レポート

学祭実行委員長 藤田 妃保

とですが、文化祭を開催する側である学生・学校関係者全員が楽しめるような文化祭にしたい、という思いを込めました。だからこそ、文化祭に参加した誰もが笑顔になる、そんな文化祭を目指しました。一昨年には弘前学院大学が創立130周年を迎え、その式典にあたり、文化祭が開催されました。

今年度の学祭のテーマは「笑顔満祭」とさせていただきます。このテーマには、文化祭に来てくださったお客様はもろろんのこ

また、今年の芸人ライブでは、テレビでおなじみの「横澤夏子」さんや「チョコレートプラネット」さん、数年前にも一度お越しいただいた「佐久間一行」さんを出演予定としておりました。しかし、生憎の猛烈な台風25号の影響で交通機関に遅れが生じ、「横澤



また、今年度の学祭のメインイベントは、先程述べました「芸人ライブ」のほか、「ミス・ミスターコンテスト」、「女装・男装コンテスト」、「仮装コンテスト」、「カラオケ大会」、「クイズ大会」、「学生ステージ」、「学長とじゃんけん大会」、「ハンドベルクワイア演奏会」、「吹奏楽団演奏会」、「軽音ライブ」でした。この中でも、今年度新しく取り入れたのが「仮装コンテスト」、「クイズ大会」、「学生ステージ」、「学長とじゃんけん大会」です。「学長とじゃんけん大会」は数年前にも行われていた企画を復活させ、学長にご協力いただいで、中庭ステージで行われました。どのイベントにも多くの人が集まり、盛り上がりを見せました。また、今年度の文化祭では各サークルや部活動、有志の学生の協力もあり、出店数

ような状況の中で、誰もが楽しむためにどのようなイベントを企画しようか、どのような工夫をこらそうか考えてきました。そこでまず、新しい試みとして今年度の文化祭では「コスプレ大歓迎」という企画を実施しました。10月といえば、ハロウィンの季節です。キリスト教主義教育の学校であるということも含めて学校と学祭をPRすることをねらいとし、コスプレをして文化祭をさらに楽しんでいただこう！と考えました。コスプレをしてくださった方には、出店の食べ物や飲み物、お菓子がもらえたりの特典を用意しました。文化祭当日は、コスプレをして楽しんで見ることが見られ、初めての試みとしては、成功だったのではないかと感じております。

今年度の学祭のメインイベントは、先程述べました「芸人ライブ」のほか、「ミス・ミスターコンテスト」、「女装・男装コンテスト」、「仮装コンテスト」、「カラオケ大会」、「クイズ大会」、「学生ステージ」、「学長とじゃんけん大会」、「ハンドベルクワイア演奏会」、「吹奏楽団演奏会」、「軽音ライブ」でした。この中でも、今年度新しく取り入れたのが「仮装コンテスト」、「クイズ大会」、「学生ステージ」、「学長とじゃんけん大会」です。「学長とじゃんけん大会」は数年前にも行われていた企画を復活させ、学長にご協力いただいで、中庭ステージで行われました。どのイベントにも多くの人が集まり、盛り上がりを見せました。また、今年度の文化祭では各サークルや部活動、有志の学生の協力もあり、出店数



中長期目標実施計画の 確立・実践に向けて

学校法人弘前学院 理事長・学院長 阿保 邦弘



七 「学内体制の構築」 「不易と流行」

「空飛ぶ自動車」は、夢物語の世界と思っていた。ところが、実現はさほど遠い未

来ではないと知り、時代の進むスピードに驚いている。

AIが日常生活のあらゆる分野に入り込む時代は、すぐ目の前に迫っているのである。

また、ここ数年各地で災害や気候の変動が激しく、予測不可能な事態が世界中で起きている。

IoT革命による生活環境の激変や、天変地異による生命保持の危機だけでなく、時代そのものが慌ただしく動いている印象を

受ける。このようなときには、自らには動かないのが得策なのか、他より早く物事を進めるのが未来を切り開くことになるのか、思案のしどころである。

日本の歴史に倣うと(例えば明治維新)、新時代に適応して生き延びるためには、他に先んじて自ら行動を起こすべきだが、その判断に悩むのが我々人間である。

「不易と流行」の文字が浮かんできた。 (時代を超えて変わらない価値のあるもの) (不易) 時代の

変化とともに変えていく必要のあるもの(「流行」以上、「21世紀を展望した我が国の教育の在り方」について―中央教育審議会答申―平成8年7月19日)から) 当然、本学にとっての「不易」とは建学の精神である。また、それを伝統と言い換えてもよいが、何れにしても時代の激流に流されることのない、本学院が永遠に堅持すべき精神である。

一方、「流行」とはその精神を堅持しつつも、他に先んじて大胆に自らや周囲を変革することで激変の時代だからこそ、身の丈

に合った、しかも学生のためになることをすばやく実施していくことが求められるのである。 ところで、本学において学内改革を担ってきたのは「新戦略会議」である。

「中長期目標企画会議」は、実施すべき計画や課題が、効果的かつ着実に実施されているかを企画・点検実行していく会議である。 また、10年間を見据えた計画であるが、時代の変化に合わせて、3年ごとに見直す場でもある。

数年前から「学内の変化があつてこそ結果の学生募集」と意識の転換を図り、会議の半分を学内改革に割いてきた。

しかし、学内改革の準備期間や1年目はそれで済んだが、2年目を迎える今年度からは、「中長期目標企画会議」を新たに設置した。 加えて、弘前学院全体の行く末を検討する場として、「経営改善

実行会議」を新設した。 「中長期目標企画会議」は、実施すべき計画や課題が、効果的かつ着実に実施されているかを企画・点検実行していく会議である。 また、10年間を見据えた計画であるが、時代の変化に合わせて、3年ごとに見直す場でもある。

数年前から「学内の変化があつてこそ結果の学生募集」と意識の転換を図り、会議の半分を学内改革に割いてきた。

しかし、学内改革の準備期間や1年目はそれで済んだが、2年目を迎える今年度からは、「中長期目標企画会議」を新たに設置した。 加えて、弘前学院全体の行く末を検討する場として、「経営改善

2018年度 1年生の特待生授与者

- ◆ **文学部**
英語・英米文学科 一年 鈴木 滋
- ◆ **社会学部**
社会学部 一年 小山内友香
- ◆ **看護学部**
看護学部 一年 野呂 沙里
- ◆ **工学部**
工学部 一年 工藤 真生

「オーデオイオ実証実験コーナー」、社会学部企画の「命の大切さを学ぶ教室」、看護学部からは風景と生き物をテーマにした「写真展」、昨年に引き続き成田専蔵主宰の「コーヒーパフォーマンス」

来年度は今年度の良かった点や改善点を踏まえて、さらに発展することと思っております。どうかこれからもご支援ご協力、よろしくお願いたします。

が昨年の倍以上となりました。野外模擬店はもちろんのこと、書道部や華道部をはじめとする文化部の作品展示会や茶道部茶会、カフェや射的のお店も出店されました。また、各学部の先生方や社会福祉施設さん、弘前モーターサイクルさんのような学内外の方たちにもご参加いただき、学内の教室も大いに盛り上がり、充実しておりました。学祭前日から2日間に行われた「青森ワッツのパブリックビューイング」をはじめ、文学部企画の「ヒロガクを語る川柳大会」、「English Cafe」、文学部長・井上諭一先生の「オーデオイオ実証実験コーナー」、社会学部企画の「命の大切さを学ぶ教室」、看護学部からは風景と生き物をテーマにした「写真展」、昨年に引き続き成田専蔵主宰の「コーヒーパフォーマンス」

今年度の学祭は、昨年度同様に学祭運営の経験者が学祭実行委員会に少ない中、模索しながらの企画・運営となりました。様々な経験をもとにアドバイスや意見をくださった、教職員の方々と、快くスポンサーとなってくださった方々、学校近隣の住民の方々、外部の企業や社会福祉団体の方々、そして有志の学生や学祭実行委員のメンバーの協力があってこそ成り立ちました。本当に、皆様のご理解とご協力に感謝いたします。ありがとうございます。

談話室

ハロウィンの思い出

文学部 英語・英米文学科 教授 川浪亜弥子



夏の暑さが過ぎ朝晩はかかなり涼しくなり、再び厳しい冬に向けて少しずつ心の準備をする時期となりました。しかしこの時期には、豊かな気分を味わえる機会もたくさんあります。美しい秋晴れの日には空がとて高く感じられ、清々しい気持ちになります。また秋に収穫される様々な果物や旬の食べ物が美味しい季節です。毎年10月31日に行われるハロウィンは、元来は秋の収穫に感謝し、この時期にやってくる悪霊を追い出すことを目的とするお祭りです。本学でも、英語・英米文学科が中心となってハロウィンパーティーが企画され、仮装コンテスト、ジャック・オー・ランタンコンテ

スト、ハロウィンに因んだゲームなどをしてお祝いしています。私はかつて7年間イギリスに住んでいたことがあります。ハロウィンはアメリカでは盛大にお祝いされるようですが、当時のイギリスではそれほど大きなイベントではありませんでした。最初の4年間は大学の寮での生活でしたが、ハロウィンの日には、アメリカやカナダからの留学生の影響で、アップル・ポニング(たらいに浮かべたりんごを手をかわす)や口でくわえるゲーム(りんご)などを楽しんで過ごしました。

その後の3年間は大学を移籍したために、イギリス特有の長屋のような住宅に下宿し、大家さんと一緒に住んでいました。ある年の10月31日の夜、私はひとり必死に論文に取り組んでいました。するとドアのベルが鳴り、開けてみると、「Trick or Treat? Happy

Halloween」という声。黒いマントを纏った子供たちの一団が立っていました。「そうか、今日はハロウィンか」と思いながら、私はあてもなくお菓子を求めて家の中を探し回りました。しかし見つかったのはあまりフレッシュではない小さなりんご一個。当時の私は貧乏学生で、毎日のおやつは小さなりんご二個のみでした。そのりんごは翌日食べようと残しておいた最後の一個でした。いたずらも免れ得ない差出ものでしたが、子供たちはこやかに受け取ってくれました。ハロウィンの時期が

につれて変わるのか好奇心を強くもつようになりました。生徒たちのモチベーションの変化をみたのは、いくつかの学校だけですが、その問題はどこに行ってもあるものだと思います。小学校の5年生から「外国語活動」という時間があり、いろいろな国の言葉、文化などを学びますが、ほとんどの場合、それらは英語の授業になっていきます。また「活動」なので、楽しいことのように思えるでしょう。しかし、6年生に質問をしたところ、5年生に質問した時よりも、モチベーションが下がっていたのです。研究の結果、もともと影響を与えるのは、教員と学校の背景でした。

小学校教員から大学講師へ変わりましたが、私の中でそれらの興味はなくなることはありませんでした。学生の年齢は上がりませんが、大学でもまた、学校の背景と教員は学生のモチベーションと関係があると考え、私の研究が進みました。大学生の場合は、自身のモチベーションの状態に気づいていることや、友人関係も影響があるということが分かりました。大学生の場合は、自己

高大連携

聖愛中学・高校で 研究授業

9月13日・14日に、高大連携

の一環として聖愛中学校と高校において、初めての試みとなる英語と国語の研究授業が行われました。文学部の英語・英米文学科の学生8名と日本語・日本文学科の学生20名が参加しました。山上校長先生、岩淵教頭先生の

やってくる度に、ちよびり赤面するような、でもなんとも懐かしいあの場面を思い出します。規制が重要な役割を果たしています。自己規制はモチベーションの中にも含まれています。この自己イメージが、私のこの研究の中で最も大切だと気付かせてくれました。未来の自分がイメージできる学生のモチベーションは、イメージできない学生より高い傾向にありました。そして、学生たちが自分自身の未来をイメージできた時、モチベーションと積極的参加が上がるのです。

現在研究しているのは、このモチベーションが、どうやったら積極的行動につながるのか、というテーマです。モチベーションは重要なことですが、モチベーションを持つだけで積極的に行動にうつさなければ、「学ぶ」ことにはつながらないのです。研究以外について、私の英語のクラスでは、私の研究の結果を参考に、彼らが学んでいるものの価値を示すようにつとめています。今世界中どこにいても、英語を話せる力が仕事に必要な時代になっていきます。それがどれだけ重要なことを理解してもらいながら、授業をしています。

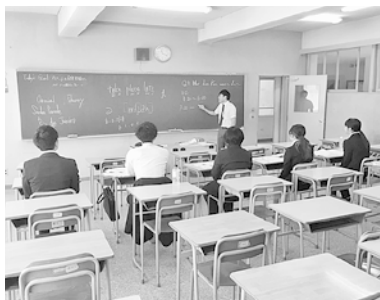
モチベーションはモチベーションと関係があると考え、私の研究が進みました。大学生の場合は、自身のモチベーションの状態に気づいていることや、友人関係も影響があるということが分かりました。大学生の場合は、自己

みちのく・ふるさと貢献基金からの 助成金で「青い目の人形」調査へ

この度、文学部・生島美和

室で実施する「青森の友好人形と『青森睦子』の再発見・活用プロジェクト」は、みちのく・ふるさと貢献基金の助成を受けることができました。

「友好人形(青い目の人形)」は1920年代の日米関係の悪化を受け、親日家シドニー・ギューリックが友好のしるしとして日本の子ども達に人形を送ることを全米に呼びかけたことにより、青森県には220体が来て大歓迎を受けました。



父母と教職員の会 父母・教職員研修会報告

七月二十八日(土)に二〇一八

年度父母と教職員の会(父母・教職員研修会)が催されました。本学礼拝堂を会場に、49名の保護者および教職員が参加しました。本研修会は、「親のための就職講座」と題し、一般企業・福祉施設・病院等の各分野の講師を招いて、最近の就活事情や採用したい学生像等について講演いただきました。この保護者対象の就職講座は、昨年度に引き続き開催され、今回で2回目の実施となります。保護者の皆様に、社会情勢や就職環境の変化に伴う就職状況の違いを理解していただくこと、またご家庭における就活サポートに役立つ情報を提供することを目的とし

て企画されました。株式会社マイナビの酒井勝伸氏の講話では、様々な調査から得られたデータを基に、就職環境について、学生が大学生活を通じて取り組むこと、保護者の意識とサポートについてお話しがありました。株式会社スズキ自販青森の寺田貴彦氏の講話では、自社の業務(自動車営業)を交えながら、企業の人事担当者が考える就職活動や、企業側が知りたい学生の情報についてお話しがありました。社会福祉法人七峰会の東谷康生氏の講話では、自身の就活体験談や、福祉の仕事に携わる上で大切なこと等についてお話しがありました。

文化庁「被災地における方言の活性化支援事業」採択

平成三〇年度の「被災地における方言の活性化支援事業」の選考がなされ、本学は7年連続で文化庁の事業に採択されました。

この事業は東日本大震災の被災地方言に關し、方言の力により地域を活性化し、方言の保存と継承を目的としています。研究責任者である文学部・今村かほる教授と日本語・日本文学科の三年生「日本語学演習I」の学生たちを中心に、地域住民のみならず若年層をつなぐ活動を実施します。

十月二十一日(日)の「かだるびや・かだるべし青森県の方言の語り部ネットワーク会議」を皮切りに、十二月一日(土)八戸市ポータルミュージアムはつちでの第六回南部弁の日を運営します。どうぞ、お出かけください。(詳細は大学HPに掲載)

医療法人整友会弘前記念病院・看護部長の二戸悦子氏の講話では、新卒就職状況、臨地実習、卒後教育、自院の強みなど看護師の仕事や就職後のサポート体制について資料を用いてお話しがありました。各分野の講師の講話の後は、本学教員および就職課長より本学の就職状況や学内での就職支援行事、各学部の就職状況について報告がありました。最後は、保護者と講師、本学教員との懇談会が催されました。少人数のグループに分かれて行い、講話の内容に関すること等につ



Motivating students in the classroom

文学部 英語・英米文学科 講師 スティーブン・マックウィニー

私の研究のテーマはモチベーションと積極的参加についてです。これらのテーマは、中学校と小学校で働いていた時に興味を持ちました。10年以上前に来日して、小中学校で英語を教えながら、なぜ、同じ学校にいる学生同士で、モチベーションのレベルが違うのか、興味がわきました。すぐにモチベーションと積極的参加は学校や教員の影響であると考え、そのことに夢中になるようになりました。私は小中学校で教えていたことで、学生たちの成長をみることができました。小学校の入学から英語の興味を持っていた子はたくさんいましたが、成長して、中学生になり、英語の興味がだんだんなくなっていくことがわかりました。中学卒業まで、「英語が嫌い」という生徒もたくさん居ました。それを見て、なぜ成長する

モチベーションと積極的参加は学校や教員の影響であると考え、そのことに夢中になるようになりました。私は小中学校で教えていたことで、学生たちの成長をみることができました。小学校の入学から英語の興味を持っていた子はたくさんいましたが、成長して、中学生になり、英語の興味がだんだんなくなっていくことがわかりました。中学卒業まで、「英語が嫌い」という生徒もたくさん居ました。それを見て、なぜ成長する

モチベーションと積極的参加は学校や教員の影響であると考え、そのことに夢中になるようになりました。私は小中学校で教えていたことで、学生たちの成長をみることができました。小学校の入学から英語の興味を持っていた子はたくさんいましたが、成長して、中学生になり、英語の興味がだんだんなくなっていくことがわかりました。中学卒業まで、「英語が嫌い」という生徒もたくさん居ました。それを見て、なぜ成長する

モチベーションと積極的参加は学校や教員の影響であると考え、そのことに夢中になるようになりました。私は小中学校で教えていたことで、学生たちの成長をみることができました。小学校の入学から英語の興味を持っていた子はたくさんいましたが、成長して、中学生になり、英語の興味がだんだんなくなっていくことがわかりました。中学卒業まで、「英語が嫌い」という生徒もたくさん居ました。それを見て、なぜ成長する

モチベーションと積極的参加は学校や教員の影響であると考え、そのことに夢中になるようになりました。私は小中学校で教えていたことで、学生たちの成長をみることができました。小学校の入学から英語の興味を持っていた子はたくさんいましたが、成長して、中学生になり、英語の興味がだんだんなくなっていくことがわかりました。中学卒業まで、「英語が嫌い」という生徒もたくさん居ました。それを見て、なぜ成長する

モチベーションと積極的参加は学校や教員の影響であると考え、そのことに夢中になるようになりました。私は小中学校で教えていたことで、学生たちの成長をみることができました。小学校の入学から英語の興味を持っていた子はたくさんいましたが、成長して、中学生になり、英語の興味がだんだんなくなっていくことがわかりました。中学卒業まで、「英語が嫌い」という生徒もたくさん居ました。それを見て、なぜ成長する



国家試験に向けて

看護学部 看護学科4年 佐藤 史彰



看護師国家試験はただの人で終わるか看護師となるかの大イベントである。合格率は90%を超えており、狭き門ではないにしても100%でない以上油断の出来ない試験である。さらに、出題基準変更の影響から今年には合格者が絞られるという予想は外部講師から聞かされている。難易度が上がるということであるが、これはもうどうしようもないことであり、腹をくくるしかない。

例年「目指せ合格率100%」の目標が掲げられており、今年も目指すのは全員合格である。

言うまでもなく国家試験は4年間の集大成であり、基礎看護学から統合実習までの全てが範囲となる。看護の字も知らないあの時からここまで来たのかと感慨深いものがあるが、自分の4

実習を終えて

看護学部 看護学科4年 木村 協

領域別実習は三年後期から四年前期にかけてありました。長い期間でしたが、実習を終えてみると時の流れがとても早かった気がします。実習領域は老年、成人(慢性期、急性期)、在宅、母性、精神、小児、公衆衛生、統合実習でした。対象は、乳幼児から高齢者まで様々でした。

たくさんの実習をさせていたいただきました。実習を行うことで新たな気づきや学びが増えていくことを実感しました。初めの頃は、現在の状況の患者さんに焦点をあてることで精一杯でした。しかし、患者さんは症状が改善すると退院となります。先を見据えた看護を展開することの大切さを

教育実習を終えて

文学部 日本語・日本文学科4年 成田 元希



私は、青森県立弘前第一養護学校で教育実習を行いました。弘前第三中学校でも実習をさせていただいたので、実習は二校めでしたが、特別支援の実習は二週間という短い期間の中で、毎日が充実しており、多くのことを学ぶことができました。

実習を終えて、強心に残っていることあります。「障害」ということばの捉え方です。今回の教育実習で様々な生徒と関わることでできました。肢体不自由があり車いすで移動する生徒、目が見えないことにより聴覚と触覚が優れている生徒など私が考えている以上に様々な生徒がいました。私は今まで「障害」ということばのマイナスの意味だけを意識して捉えすぎていたのではないかと気づきました。なぜなら、生徒一人一人ことばでは表せない良いところがあること

社会教育実習を終えて

文学部 日本語・日本文学科3年 白取 拓斗



私は、社会教育実習の一環として弘前市中央公民館の事業である「子ども会リーダー養成事業」と参加させていただきました。この事業は、小・中・高校生を対象に、レクや宿泊学習等を通じてコミュニケーションの大切さやリーダーシップを学ぶことを目的としています。今回はこの宿泊学習の方へスタッフとして参加しました。

そして私は、この宿泊学習を通して「やり方は一つではない」ということを学びました。この宿泊学習では、子どもたちにコミュニケーションの大切さやリーダーシップなどを自ら気づいてもらえるような、完璧なプログラムでいければいいなと、深く深く夜に行われるスタッフ会議ではその日の反省を活かして、次の日の完璧だったプログラムを、より子どもたちが自ら学習できるように環境へと導けるように修正していきました。ここで私は、やり方は一つではないのだと気づ

社会福祉実習を終えて

社会福祉学部 社会福祉学科3年 小田桐 辰徳



私は、児童養護施設弘前愛成園で社会福祉実習を行った。実習は、本施設だけでなく、分園施設の地域小規模児童養護施設『和』でも実習を行った。

実習の内容としては、基本的に子どもとの遊び、掃除、洗濯などの環境整備、学習、食事指導、登校準備等を通して子どもたちの不安を少しでも取り除き、養護するための土台を作った。

実習中に出てきた課題の中で夏休みの宿題を行う際に子どもたちは答えばかりを求め、自分自身で考えることをしなかったこと

精神保健福祉実習を終えて

社会福祉学部 社会福祉学科4年 佐藤 智大



私は、精神科病院「弘前愛成会病院」と就労継続支援事業所「つかのファーム」の2か所で実習をさせていただきました。精神科病院「弘前愛成会病院」では、主に患者さんへのかかわり方や地域移行・地域定着に焦点を当てました。

また、患者さんからは退院への希望や将来の夢を引き出せるようにかかわることを意識し、実習に臨みました。

元々、精神科病院には閉鎖的で暗いという印象がありました。精神科病院へ入院する患者さんとも他者とのかかわりを持つとうしないのではないかと、知らず知らずのうちに心の中で思っていました。その思いから、コミュニケーション

と一緒に考えることも信頼関係を築く上で重要であると学んだ。二つ目は、トラブルが起きた際のコミュニケーションの取り方である。まず、けんかをしている子ども同士を引き離すこと。個別に話を聞いたり、落ち着くまで一緒にいたりすることが必要であること。

その後、二人の関係を悪化しないように謝罪をする学んだ。その際の教員側のコミュニケーションとして、なにがあったのか把握すること、何が悪かったのかを伝えること、その子の存在を否定しないことが挙げられる。

今回、弘前愛成園で実習を行い、普段関わることの出来ない人との関わりや新しい発見をすることができ、私にとってかけがえのない経験となった。今回の実習で学んだことを、今後の生活に役立てていきたい。

私から話しかけてくれることが多く、趣味や日常生活のことで盛り上がることも少なくありませんでした。

精神科病院と比べ、利用者さんとの距離感が近いこともあり、より深い関係が築けたのではないかと感じます。

私は精神保健福祉実習を通して、障害を抱える方とのかかわり方はもちろん、先入観を持たずかかわっていくことの大切さを改めて学ぶことができました。自分でも気づかないうちに先入観を持っていることがあり、先入観を持たないようにすることは難しいと思います。しかし、実際に障害を抱える方と接していくうちに、私たちが何も変わらないことがわかりました。

経験しなくては気づけないこともあるため、これから様々なことを経験していく中で、新たな気づきのために、何事にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

私は、精神科病院「弘前愛成会病院」と就労継続支援事業所「つかのファーム」では、精神科病院での実習も踏まえ、先入観を持たずに、積極的に利用者さんとかかわるよう意識しました。また、地域定着の観点から、日常生活での困難や利用者さんの調子が悪い時等の職員の声がけに焦点を当て、実習に臨みました。精神科病院で経験したことを活かし、積極的にかかわりを持つとうと心掛け、コミュニケーションを図りました。この実習先でも、利用者さん

2018年スポーツ大会レポート

学友会執行委員 渋谷 華帆



年度の参加者の要望に答え、バドミントン、バレーボール、バスケットボールの各3競技の競技時間や点数を少し増やして行った。それによって各競技に出場した選手はのびのびと競技にあたることで、思い存分に楽しむことができたことと思う。

今年度のスポーツ大会は例年と同様、男女別のバドミントン、バレーボール、バスケットボールの3種目で行った。今年の参加チームは男女合わせてバドミントンは十一チーム、バレーボールは八チーム、バスケットボールは六チーム出場した。今年度の参加者は約100人程度とあり、残念ながら昨年度よりも参加者が少ない状態であった。しかし参加者が少ない分昨

今年度の夏は全国的にも異例の暑さが長く続いた夏になった。この前年も厳しい暑さが続き、毎朝テレビの気象予報士が「熱中症に嚴重な注意が必要ですよ」と呼びかけていたような夏だったように思う。その暑さを考慮し、今年度も昨年同様に、熱中症対策として後期開始日の直前である九月二十一日に開催した。結果として暑さを気にせずスポーツを楽しむことが出来たように感じた。

- バドミントン (男子) チーム「ハリボー」 社会福祉学部3年 小田桐辰徳
- (女子) チーム「金より大事なもの」 社会福祉学部2年 谷川穂乃佳
- バレーボール (男子) チーム「おっかめホーテ気ん王」 社会福祉学部3年 小田桐辰徳
- (女子) チーム「SPG」 社会福祉学部4年 山崎夏未
- バスケットボール (男子) チーム「わかば」 社会福祉学部2年 中村拓矢
- (女子) チーム「チームナース」 看護学部1年 中村友香里

社会福祉学部企画

命の大切さを学ぶ教室を開催

命の大切さを学び、社会全体で「罪を犯してはならない、犯させてはならない」という規範意識をより一層高めていくためにも、青森県警察本部警務部警務課犯罪被害者支援室ならびに公益社団法人あおもり被害者支援センターのご協力のもと講演会を開催しました。講演会には、学生・一般市民あわせて約20人が参加し、ご自身が犯罪被害者遺族でもある公益社団法人あお

もり被害者支援センター理事・秋田看護福祉大学教授の山内久子先生のお話にじっくりと耳を傾けておりました。



講師の社会福祉教育研究所事務の玉井厚氏から、日本で最初の頃の孤児院といわれる岡山孤児院の創設者である石井十次お

よび岡山孤児院音楽幻燈の普及啓発活動の一環を、本学の前進である私立弘前学院現弘前学院聖愛中学高等学校および弘前学院大学



優勝チーム・準優勝チーム・3位のチームは賞金・景品を獲得した。参加したチーム数は少なかったものの、出場したチーム一つひとつが会場を盛り上げ、チーム色が表れるゲームメイクをしながらスポーツをし、参加している人も、それを応援している人も一緒に楽しい時間を過ごすことができたのではないだろうか。

今年度のスポーツ大会参加者を見ると、社会福祉学部と看護学部の参加者が多い一方で、文学部からの参加者があまり見られなかった。大きな行事の一つでもあるこのスポーツ大会は、スポーツを通して他学部との交流を深めることができる良い機会である。今後は学生が積極的に参加したいと思えるような大会を目指したい。

文学部企画

文学部企画として、英語・英米文学科はアメリカやイギリスの文化に触れるイングリッシュ・カフェをおこなった。コーヒーや紅茶にあう手作りの菓子も提供した。また、カフェ内で成田専蔵主宰「紅い果実」のコーヒーパーフォーマンスも行い、多くの来場者に恵まれた。



日本語・日本文学科では、副学長・葉科勝之先生の企画による「ヒロガクを語る川柳(迷流大会)」と題し、学生生活をとりえた名(迷)川柳の数々を競った。また、文学部長・井上諭一先生の企画「オーディオ実証実験コーナー2018ハイレゾを聴くⅢ」や、国語・国文学会の学生による活動報告展示があった。その他、今村かほる先生の文化庁危機言語事業に関連した「福島県飯館村の暮らし写真展」が開催されるなど、日ごろの学生生活とはまた違った活動の一端を紹介する機会となった。

看護学部企画

4つの企画運営を1年生から4年生までの学生が行いました。認知症サポーター養成講座では、弘前市第二包括支援センターの方々が講師となりサポーターを養成しました。CAPあなたはかけがえないあなたでは、青森CAPの会の方々が講師となり、子ども自身が自分の大切さに気づき、暴力にであつたら何ができるのかを一緒に考える公開ワークショップと、学生のポスター展示を行いました。教員や学生による写真展は、昨年に続き海や山や四季折々の美しい自然の風景などを展示しました。アルコールパッチテストは実際にテストを実施し、お酒の上手な断り方などポスター展示も行いました。学生自らが力を合わせて企画運営した充実感



2018年度弘前学院大学英語弁論大会

弘前学院大学にて英語弁論大会が平成30年7月19日に開催されました。(弘前学院大学英語英米文学会主催)この大会の目的は、第一に本学学生の英語能力(会話力、文法、文章力)を向上させる事であり、第二に、多くの学生が英語学習に励み、より高いレベルの英語能力を身につける事。また発表者が与えられた課題に対する考えを深め、その考えを分かち合い共に学ぶ事にあります。

今年度は「自由課題」により、大学4年生から1年生まで、4名の学生が日頃の成果を競いました。各自4分から5分の持ち

時間のなかで、出場者はベストをつくして発表しようです。本学吉岡学長及び、聖愛高等学校のALITローラー・パーク先生、とアメリカのウィスコンシン大学からの語学研究生リード・ケンダルさんが審査委員として、出場者のスピーチを採点しました。審査基準としては、内容、英語の流暢性、発音などが重視されました。入賞者及び参加者全員に、吉岡学長より賞品が手渡されました。入賞者は以下の通り。1位、角田 愛琳奈(英語英米文学科4年)。2位、ソン・ソマン(英語英米文学科1年)。3位、三



おしらせ

- ◆クリスマス礼拝◆
12月13日(木)16時より
- ◆クリスマス音楽の夕べ◆
12月13日(木)18時30分より

場所：弘前学院大学 礼拝堂
入場無料

尚、音楽会については、本学まで問い合わせ下さい。金管五重奏・パイプオルガン・ハンドベル演奏他を予定しています。

は来年に引き継がれていきます。展示も行っていきます。学生自らが力を合わせて企画運営した充実感

